

重点取組分野	令和 元 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きて働く知	①重点研究・理科(生活科)の学習を通して、自然現象や身の回りのことに興味・関心をもって問題を解決する力を養う。②日々の学習を通して、子どもたち自ら学んでいく力の向上を図り、各教科間を超えた知識のつながりをめざす。	①目的意識、材料の豊富さ、身近にいる生き物や場面、導入の工夫など、入り口部分の工夫を意識して行った。②導入の工夫により、興味関心をもって取り組むことができた。興味を継続させたり、根拠をもとに意見の交流ができるように、重点研究に限らず、各教科で意識していくようにする。	B
豊かな心	①なかよし活動を継続的にできるように、時期や内容を検討し、異学年同士のつながりが深まるようにする。②地域とふれあう活動を大切に、生活科や「横浜の時間」では、まちで出会う「人」とのつながりを生かした学習を継続していく。③進んで挨拶するなど人とのふれあいを大切に、温かい言語環境を整えていく。	①児童主体の活動が増え、声をかけあうなど積極的なかわりが見られた。次年度は5月に全校遠足を行い、つながりをさらに深めるようにしていく。②毎年ふれあう地域の方が定着し、継続的に取り組んでいる。③月ごとに朝のあいさつ運動の担当を委員会や4年生で分担していき、意識向上に役立てた。	B
健やかな体	①一校一実践運動に縄跳びを取り入れ、個々の体力、技能の向上をめざす。②日々、自分の体力の伸びを感じられるように、体力テストの項目を休み時間に計測できる環境を整え、体力の向上に対する意識を高める。③養護教諭が各学級でブラッシング指導を行い、歯の健康について考える機会をもち。	②体力テストの項目を休み時間に計測することは、委員会活動の中で位置づけられず実施できなかった。③学級ごと1時間のブラッシング指導を行い実技を取り入れて自分の歯の健康を守る方法を学んだ。	B
児童生徒指導	①「奈良の丘スタンダード」を全職員が共通理解して児童の指導にあたる。②学年研・ブロック研・児童支援委員会などを通して、児童の様子について情報交換を行い、児童理解を深め、チームで継続的に児童を見守っていく。	①個々によって理解が曖昧な点があり、指導が徹底できたとは言えない。②様々な課題について担任一人で抱え込むことなく、学年研・ブロック研・児童支援委員会などの機会を有効に活用し、共通理解を図ることができた。課題の把握だけでなく、具体的な支援についても検討できた。	B
特別支援教育	①児童支援委員会や学年研の中で、配慮を必要とする児童についての情報交換を行い、情報の共有をし、多くの視点から児童支援について検討する機会を設ける。②特別支援教育コーディネーターの配置を推進し、校内の体制を整備する。	①特別な配慮を要する児童に対して、具体的などのように対応したらよいか、全職員で共通理解をしたり、研修会を行った。具体的な声掛けや対応を検討することができた。②校内のコーディネーターを有効に配置し、活用することができたとは言えなかった。	B
公共心と社会参画	①「総合的な学習の時間」を中心に、地域で体験的に学ぶ機会を積極的に設け、他者とのかわりの中で一人ひとりの自己有用感を高めるようにする。②学年に応じて、地域住民や地域のお店の人たちがかわる学習活動を行い、学ぶことや働くことの意義を考えられる場を設定する。	①各学年で、地域の協力による体験的な活動を行い、他者とのかわりの中で自己有用感を感じることができた児童が多かった。②1、2年総合や3、4、5年社会科などで、地域の力を招いて継続的に指導・助言をいただき、専門性をもって活躍したり働いたりする姿を見ることができた。	B
地域連携	①地域行事等、学校が協力できることを考え、児童や職員が積極的に参加できるようにする。②奈良の丘サポートや学習ボランティアの方とともに、環境整備や学習・登校支援を継続して行える体制を考える。③より良い学校づくりのため、各地域の代表の方と情報を共有し、意見交換を行う。	①地域行事への児童の参加を積極的に呼びかけた。②今年度も主に低学年の社会科の生産の学習において、サポートをいただき、学習の一助となった。③「まちとともに歩む懇話会」での情報交流を中心に、よりよい学校づくりに向け、情報や意識の共有をはかることができた。	A
#REF!	#REF!		
いじめへの対応	①学校の「いじめ防止基本方針」について全職員で共通理解し、いじめの未然防止に努めると共に、いじめに対して全職員が「絶対に許さない」姿勢でチームとなって対応していく。②アンケートや個人面談など様々な機会を通して、いじめの早期発見、早期対応に努める。	①「いじめ防止基本方針」に基づき、いじめ防止にむけて児童理解や研修、授業を行い、全職員でいじめ防止・早期対応に努めることができた。②いじめの早期発見のために、アンケートや面談を生かすことができた。	B
人材育成・組織運営(働き方改革)	①5年次以下の教職員を中心にメンターチームを組織し、ミドルリーダーが講師となって月1回の活動を継続して行う。②グループウェアを活用して、情報の共有化を図る。③システムを活用し、事務の簡便化、効率化を図り、働き方改革につなげる。	①校内のミドルリーダーが講師を務めるメンター研を毎月1回開催した。②グループウェアを活用し、情報を共有化した。また、各部会での会議で共有した情報をブロックを中心に伝達する仕組みが整った。③システムを活用し、事務の簡便化、効率化を図り、働き方改革を進めた。	A
ブロック内評価後の気づき	①9年間の子どもの成長を見通した小学校・中学校と地域の連携推進として今年度は、英語科を柱に進めた。次年度からの小学校での英語の教科化を見据え、小・中学校とも授業公開を行い、9年間の成長像との関連もふまえて研究協議を行った。研究協議会では、英語の授業を通しての児童・生徒の変容という大きな枠組みで協議したことにより、英語科授業における児童・生徒の具体的な日常の姿とその違いが分かり、次年度へ研究材料を得られることになった。そのことを生かし次年度に繋げていきたい。		
学校関係者評価	本校が「こどもの国」を始めとした地域の材を生かした活動を進めていることがわかった。地域との交流のある活動もよい。課題としてあがった挨拶については、家庭に働きかけながら児童が進んで挨拶するなど人とのふれあいを大切に取る取組を進めてほしい。学校・地域コーディネーターを中心に学習ボランティアなどが充実してきた。学援隊の高齢化への対応については、学校と一緒に考えていきたい。教職員が時間外、休日にも働いている様子を把握している。今後も働き方改革を進めるとともに保護者にももっと現状を理解してほしい。		
中期取組目標振り返り	地域とともに歩む学校の姿を開校20周年を目前にして、カリキュラムの中に地域の教育力を積極的に取り入れることで、徐々に具現化できている。その活動の中で、本校の児童に必要な資質能力をより明確にして、学びの質の向上を図ることが課題となる。教職員の働き方改革は、今年度のストレスチェックの結果からも、前進していると考えられる。公務員としての自覚や働き甲斐等を踏まえ、量や時間の軽減を図るだけでなく、人材育成の大きな要素として、今後個々のセルフコントロール能力の向上を図ることが重要となる。		

重点取組分野	令和 2 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きて働く知	①自ら興味をもち、自分事として考えたり根拠をもとに話したりすることができるように、2年目となる理科・生活科の重点研究を進め、問題を解決する力を養う。②教科の枠を超えて学習のつながりを意識していくことにより、子どもたちが自ら学んでいく力を向上させたり、問題意識を高めたりしていく。		
豊かな心	①児童の「なかよし委員会」を新設し、より児童主体のたてわり活動にし、異学年のつながりが深まるように計画、実践していく。②地域とふれあひ「人」とのつながりを大切に学習活動を継続、推進していく。③道徳教育の充実を図り、「礼儀」「向上心」など重点的課題に取り組んでいく。		
健やかな体	①一校一実践運動に縄跳びを取り入れ、年間を通して個々の体力、技能の向上をめざす。②日々、自分の体力の伸びを感じられるように、体力テストの項目を休み時間に計測できる環境を整え、体力の向上に対する意識を高める。③校医の先生を招いて、児童と共に目や耳、鼻の健康について考えていく。		
児童生徒指導	①「奈良の丘スタンダード」を全職員が共通理解し、全職員が同じルールで指導にあたる。②学年研・ブロック研・児童支援委員会などを通して、児童の様子について情報交換を行い、児童理解を深め、チームで継続的に児童を見守っていく。		
特別支援教育	①児童支援委員会や学年研の中で、あたたかい配慮を必要とする児童についての情報交換を行い、情報の共有をし、多くの視点から具体的な支援について検討する機会を設ける。②特別支援教育コーディネーターの配置を推進し、校内の体制を整備する。		
公共心と社会参画	①地域で体験的に学ぶ機会を積極的に設け、他者との関わりの中で一人ひとりの自己有用感を高めるようにする。②学年に応じて、地域の人が関わる学習活動を行い、働くことの意義を考えられる場を設定する。③6年間を通して、こどもの国でボランティア活動などを行うことで、公共心を高めるようにする。		
地域連携	①地域行事等、学校が協力できることを考え、児童や職員が積極的に参加できるようにする。②奈良の丘サポートや学習ボランティアの方とともに、環境整備や学習・登校支援を継続して行える体制を考える。③より良い学校づくりのため、各地域の代表の方と情報を共有し、意見交換を行う。		
#REF!	#REF!		
いじめへの対応	①学校の「いじめ防止基本方針」について全職員で共通理解し、いじめの未然防止に努めると共に、いじめに対して全職員が「絶対に許さない」姿勢でチームとなって対応していく。②アンケートや個人面談など様々な機会を通して、いじめの早期発見、早期対応に努める。		
人材育成・組織運営(働き方改革)	①5年次以下の教職員を中心にメンターチームを組織し、ミドルリーダーが講師となって月1回の活動を継続して行う。②グループウェアを活用して、情報の共有化を図る。③システムを活用し、事務の簡便化、効率化を図り、働き方改革につなげる。		
ブロック内評価後の気づき			
学校関係者評価			
中期取組目標振り返り			

重点取組分野	令和 3 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きて働く知	c1		
豊かな心	c2		
健やかな体	c3		
児童生徒指導	c4		
特別支援教育	c5		
公共心と社会参画	c6		
地域連携	c7		
#REF!	c8		
いじめへの対応	c9		
人材育成・組織運営(働き方改革)	c10		
ブロック内評価後の気づき			
学校関係者評価			
中期取組目標振り返り			